

リクエストのルーティングについて

この文書では、フレームワークがリクエストの URL に従ってどのコントローラに制御を移すかについてまとめる。

参考

1. ルーティングを担当するクラス ActionController::Routing のドキュメント
<URL:<http://api.rubyonrails.org/classes/ActionController/Routing.html>>

基本

- ・Rails アプリケーションごとに自由にルーティングの規則を設定することができる。その設定ファイルが config/routes.rb である。

既定の規則

フレームワークでは基本的に Rails の既定のルーティングの規則を利用している。既定の規則を定義しているコードは以下のようになっている:

```
map.connect ':controller/:action/:id'
```

上の引数は URL のパス部分にマッチし、その意味する内容は以下の通り:

:controller

呼ばれるコントローラに対応する。

:action

呼ばれるアクション(メソッド)に対応する。

その他のキーワード

:id などのキーワードが埋め込まれている場所にある文字列はパラメータとして扱われ、params から参照できる。

この規則に従って、例えば

- ・http://localhost:3000/attachment/show/3
AttachmentController のメソッド(アクション) show が呼ばれる
params[:id] が 3 となる
- ・http://localhost:3000/mail_sender/post/20
MailSenderController のメソッド(アクション) post が呼ばれる
params[:id] が 20 となる

というふるまいになる。

この既定の規則を採用していない画面がいくつかある:

- ・トップ画面
- ・生成されたアプリケーション画面

これらの画面で行われるルーティングについて、以下で順に説明する。

トップ画面の規則

トップ画面とはログインが完了したあとに最初に表示される画面で、"/" でアクセスされる。このリクエストは

MenuController

で制御される。

この規則は次のようなコードで定義されている:

```
map.connect ' ', :controller => "menu"
```

ポータル機能を利用している場合には、トップ画面がロードされた直後に複数の Ajax リクエストが生じるが、これらのリクエストはそれぞれの URL に対応するルーティングに従う。

生成されたアプリケーション画面の規則

生成されたアプリケーション画面は

- ・一覧画面
- ・詳細画面
- ・新規作成画面
- ・編集画面

からなる。

これらをルーティングする規則はつぎのコードで定義される:

```
map.connect 'product/:product_id/:action/:id', :controller => "product"
```

この規則に従って、例えば

- ・`http://localhost:3000/product/10/list`
ProductController のアクション `list` が呼ばれる
その結果 Product ID が 10 の機能で一覧画面を表示する
- ・`http://localhost:3000/product/8/new/show/33`
ProductController のアクション `show` が呼ばれる
その結果 Product ID が 8 の機能で ID 33 の対象を詳細表示する

というふるまいになる。